

令和8年度第1回幕別町部活動地域移行検討委員会 開催結果

1 開催日時

令和8年5月25日（月）19時00分から20時10分まで

2 開催場所

札内コミュニティプラザ 会議室1・2

3 出席者

【委員】

高道委員、沖田委員、上野委員、七田委員、小田委員、加藤委員、坂口委員、西山委員（全8名） ※欠席2名：稗田委員、小松委員

【教育委員会】

谷口教育部長、甲谷学校教育課長、木村生涯学習課長、佐々木学校教育係長、松田社会教育係長、東出社会体育係長、喜多学校教育推進員、尾崎主事補、古市

4 議題

(1) 部活動地域展開に関する課題の整理・検討（資料に基づき説明）

【質疑・意見】 ○：委員、●：教育委員会

- 陸上に関しては、教員による申込や引率が負担になっている。小学校の先生方から、他市町村では地域展開の取組が動いているため、「本町でも早く地域展開を進めてほしい」という話を聞いている。地域展開にあたっては、中学校だけではなく、小学校もあわせて考えていく必要があり、高校・社会人も含めたクラブ活動とした独自の方式をつくることで、魅力あるまちづくりにつながるのではと考える。
- 人口減少が予測される中で、今後の部活動がどのようなかという予測はどの市町村も共通している。今ある部活動をどうするかという議論ではなく、地域主体でどのように運営していくのかという議論をすべきである。
また、部活動から地域クラブに移行することで任意団体による活動となる。法人格がない団体が運営する場合、事故が起きた場合に団体責任者が全ての責任を負うこととなるのか等、責任の所在（ガバナンスやリスク管理）について検討する必要がある。
- 国の方針では令和13年度を目標年としているが、保護者の気持ちがとても大切だと思う。地域展開を進めるにしても、保護者と先生との感覚の違いをきちんと把握する必要があるのでは。
- 地域展開に向けて進めていくのは良いが、何の準備がなく急に変化が起きてしまうようなことがあれば、子どもたちが犠牲となってしまうことから、段階的に移行していくほうが望ましいと思う。学校現場の先生は、将来的に地域展開へ向かって進むことは理解しているが、現在の状況を見ると、急に地域展開という形をとるのは難しいと共通認識を持っている。

- 地域展開にあたり、「人・物・金」をどうするか。具体的に、「人」は指導者や受け皿の整備、「物」は施設利用のあり方、「金」は持続可能な受益者負担の設定である。

中学校の部活動をどうするかという議論に行きがちであるが、小学校との接続についても考える必要がある。

- 準備期間や検討ばかりに時間をかけていても、物事が進まない実感がある。検討委員にある程度具体的な話を投げかけてもらえれば、意見や提案を出すことができる。もっと検討委員を頼りにしてほしい。

また、地域展開に準備時間をかけて進めるべきという意見があるが、自分の子どもの町外クラブチーム（アイスホッケー）の場合、昨年12月末に初めて話を聞かされた。そこで感じたのは、不安よりワクワク感の方が大きく、志の高い選手たちが集まる場所になることへの期待感があった。時間ばかりかけては、取返しがつかなくなるのではないかと心配する。

- 皆さんの話を聞いていると、検討委員の考え方がそれぞれ異なっているという印象を受けている。課題を1つ設定するにしても、それを基に検討する資料がまだ揃っていない状況である。町内の現状をしっかりと把握できていないという点が課題だと思っている。情報が不足している段階では、議論の深まりがなかなか期待できないのはと感じる。

また、将来的に運営団体の組織を作ることが必要であると思っているが、その組織化に向けた具体的なイメージが湧いてこない。組織化の方法や運営体制、現時点での状況についての資料を情報提供してほしい。

- 委員の皆さんの意見を何うなかで、現状把握や保護者の思いを正確に理解することが重要であると改めて認識した。特に大切なのは、何よりも子どもたちのことを中心に考えたうえで進めていくことであり、小学校との連携も含めて、しっかりと整理しながら進めていくことが重要である。

アンケートが令和6年度であり、現在と変化している部分もあるはずなので、もう一度内部で調査を進める必要があると思う。

改めて課題の整理が重要であると思う一方で、「動きながら考えていく」ことも必要であると考えている。

- 最終的な判断を下すために根拠となる資料や調査が必要であれば、しっかり行うべきであるが、以前に行ったアンケートや全国的な動向を踏まえた個人的な考えでは、大きな変化はないのではと思っている。

一方で、地域展開の方向性を明確に示してほしい。総論と各論を区別して考え、総論の段階で基本的な方向性をしっかりと固める必要がある。方向性を延々と議論するのではなく、決断して前に進むべきではないと感じる。

- 全てを一度に実現するのは現実的に難しいので、できるところから段階的に進めていく形が良い。取組を進める過程では保護者の思いや指導者の存在が重要になる。指導者が学校の先生や外部の方など関わり方は多様であり、子どもたちの目的や目指す方向もそれぞれ異なる。多様な目的に対応するには、全てを進めるよりも、部分的にできるところから進めるほうが適切だと感じる。

具体的な課題として、送迎問題が非常に重要であり、保護者が送迎となると大変な負担になる。こうした課題をクリアしていくことが、地域展開を推進するうえで非常に重要だと思

う。

- 一定の方向性を決めていく時期に来ているが、地域展開を進めていくために、子どもや保護者に対しての働きかけや情報提供、それに基づく意見交換を行うための時間がかかり必要であると感じる。

例えば、2年間くらいの準備期間を設け、その間に保護者や関係者と相談を重ねたり、情報発信を行ったりしながら進めていくという段階的な進め方が適切なのかもしれない。この準備期間中に、保護者から送迎、保護者負担、指導者確保といった具体的な課題が出てくるが、その課題に時間をかけて議論し、解決策を練る余裕を持つことが重要だと思う。

段階的な進め方をする場合には、活動ごとに具体的な課題と目標を明確化し、進行を管理していくことができるので、計画全体を漠然に進めるのではなく、次に何が課題であるか、何を話し合うべきかが明確になり、より効果的に進行できる。

また、早めに地域展開を進められる競技や活動が出てくるかもしれないが、その活動だけ先行して展開を進めるという柔軟な対応もできる。

ただ、急いで地域展開に向かおうとすると、見えない部分が多く、ハードルも高くなってしまう可能性がある。先ほど説明があった中学校の部活動の状況について、各学校からの声や細かい状況を把握しながら進めてきたものであり、そこで感じたのは丁寧に準備を進める必要性があるということである。

- 話を進めたいのは、あくまでも「地域展開をしていくための方向性について議論を進める」という点である。

これまでの会議の流れとして、地域展開の方向性を共有し、具体的な話を進めるつもりであったが、途中でまた「地域展開をどうするか」という前段階の話に戻ってしまったように感じる。そのため、今回の議論では、「地域展開を進めるなら、どうするのか」という点に焦点を置いて進めていきたいと思う。

具体的には、地域クラブ化を進める際に、会費の設定、地域クラブの認定条件など整理すべき課題がいくつか出てくると思う。

また、地域クラブ化がいつ実現するか、具体的な時期について現時点では明確に出ないが、地域展開の方向性を整理して進めていきたいというのが今回の議論の意図である。

- 地域展開を急いですぐに進めるべきという話ではなく、むしろ議論をしっかり行い、十分に検討を重ねたうえで、良いものを作りあげていこうということを強調したい。

これまでの会議で、その部分が十分に議論されてこなかったと思うので、今改めて時間をかけて意見を集約し、計画をきちんと練るべきだと考える。過去には会議が中途半端な状態に終わり、他の地域で何か取組が始まった際には「焦って急いでやらないといけない」という状況になってしまうのではないかと心配する声が出ている。そうならないためにも、今後は議論のプロセスを丁寧に進めるべきだと考える。

- 何年までに目標を設定するという考え方には賛成である。目標がはっきり定めれば、これまで漠然とした部分にも明確な焦点があたり、計画が動き出すはずである。

そして、その目標が学校や保護者に共有できれば、具体的な課題が明らかになり、現場の問題に対する議論が進むだろう。また、目標が明示されることで、周囲の関心も高まり、「この機会に活動してみよう」という動きが出てくる。

そのため、何年までに達成するという具体的な目標を掲げることは非常に有益だと考える。

- 個人的な見解になるが、先日の高木美帆さんのパレードが行われ、地域全体が活気づいた。このような取組を参考に、地域の特徴を生かした「トップダウンによる地域展開」として進めるのも一つの方法ではないかと。

地域展開の方向性を示して、住民を巻き込んでいくような取組があれば、もっとスムーズに展開していけるのではないかと思う。

- 「トップダウンの意思決定」に関する印象は、一般的に独断で物事を進めるイメージを持たれることが多いが、どこかの時点で決断して前に進める場面が必要なのではないか。トップの方がしっかり判断したうえで指針を示してくれないと、現場として進めづらい状況が続いてしまう。

地域展開においても、市町村教育委員会や学校現場では「責任を持って進めなければならない」と感じているが、具体的にどう動けばよいのか、自分たちだけで決断してよいのかという部分で足踏みしてしまうことがある。配慮すべき要素や収集する情報、合意形成の重要性を理解しているからこそ、慎重になりすぎて進みにくいという側面がある。

そのため、トップの方が明確に意思表示して方向性を示してくれることで、教育委員会や学校現場は安心して前に進もうという意思が固まりやすいのでは。

- これから陸上が地域クラブ化の動きがある中で、地域展開に向けた構想が固まっていないことがネックにあると考えている。そのためには、部活動地域展開推進計画の策定や地域クラブの認定制度の創設を進めていく必要があると理解しており、少しずつ取組みながら、委員の皆さんと議論していきたい。

- 地域展開の議論を進める中で、地域展開の方向性が曖昧になり、難しさを感じる場面がある。

例えば、コミュニティスクールの会議で、「地域で協力してくれる人材はどれくらいいるのか」という話し合いをしてみても、具体的な人材がなかなか見つからないという現実があり、地域展開を進めた場合、どのように受け入れてくれるのかという不安は拭えない。

また、中学校の部活動の役割を考えると、単に「好きなことを思いきりやる」というだけではなく、スポーツや文化の裾野を広げるという重要な役割があると思っている。活動が継続できるような取組として、まずは中学校同士の連携を強化することが必要だと考えるが、人事異動による指導者の変動が大きな課題である。

本町のように学校数や生徒数が多い地域であれば、地域内の課題を解決できればスムーズに行うことができるが、町村をまたぐような連携になると更に課題が増える可能性がある。

競技ごとの地域展開は、その競技に特化した方々の意見が主導的になることが多いが、中学校の現場として多様な競技や活動の状況を幅広く考えなければならない。先生が地域クラブを担当しながら、兼職兼業の形で進めている現状は、教育委員会のサポートのお陰で成り立っている側面がある。

現段階では何も進んでいないというわけではなく、少しずつ進行しているという感覚はあるので、まずは一つずつ課題を解決しながら、地域の取組を丁寧に進めていくことが大切だと思う。

- 大きな視点で地域展開を考える際、いくつかポイントがあると感じる。例えば、一つの種目だけで部員が足りなくなり、その活動が難しくなった場合、他の町村と連携して対応しようとする、課題も出てくると思う。

しかし、地域展開の大きなメリットであると考えれば、単に一つの種目に限定するのではなく、幅広いスポーツや文化活動の情報を提供する場としての可能性を広げることになると思う。競技間の関連性やつながりを意識し、別の分野に挑戦してみるといったような流れも生まれるかもしれない。一つの種目に縛られるのではなく、より広い視野で競技や活動の選択肢を見つけていけるのではないか。

そうした柔軟な考え方が、地域展開の新しい可能性を生み出すと思うので、検討委員の皆さんから幅広い意見を出していただきたい。

- 地域展開は学校や教育委員会だけで進めるのではなく、地域全体で取り組むべきだという考えを持っている。町全体が一丸となって、子どもたちの部活動やスポーツ指導を支えていく仕組みを作り上げることが大切である。検討委員会の初期段階で、私たちだけで議論して決めるのではなく、町全体の意見を聞きながら進めていくことが大事であると話していたことを改めて振り返りたいと思う。

広い視点で地域展開を進めていく中では、様々な気付きや新しいアイデアが出てくるはずで、そのアイデアを生かすためにも、地域や関係者の意見を聞く機会を積極的に設け、十分な時間をかけて進めることが必要だと思う。

教育委員会や私たちの役割として、議論を通じて具体的な方向性を検討し、進めていくことである。調査が必要になれば調査を行い、状況に応じて動きながら、適切に対応していく。そして、空白を作らず、焦らず丁寧に進めていくことがこの検討委員会の役割だと考える。

過去の検討委員会では、その点について十分に対応できていない部分があったと思う。過去の課題を教訓にしながら、皆さんから活発な意見をいただき、それを基に進めていきたい。

- 今回の議論でも課題の整理や検討に関し、教育委員会がこのような課題があるという具体的な提示ができていない状態であったので、今後改善していきたいと考えている。

時間がかかるかもしれないが、まずは教育委員会内でしっかり考えを整理し、それを委員の皆さんに伝え、議論を進めるようにしていきたい。限られる時間の中で、会議を効率的かつ充実した形にするのが大切だと考えている。

議論の中身の充実を優先しながら進めていき、短期的・中期的・長期的な視点を踏まえたステップで進んでいきたいと思う。

- 教育委員会内で課題を整理して提案するという作業は非常に負担が大きいと危惧するので、進め方に関しては、検討委員にも託してもらってもよいのではないかとというのが私の意見である。

また、先ほど話があった陸上のクラブ化について、ガバナンスやリスクマネジメントの観点について、行政がどのように整理されているのか疑問が残る。クラブで指導している先生の活動は部活動と異なり、個人の活動で関わることになるため、もし問題が起きた場合は個人の責任となる。その点について、行政としてどのような立場を取るのかをしっかりと整理する必要がある。

- 部活動がなくなった場合、先生の負担軽減につながる一方で、地域クラブでの活動で指導したい先生もいる。国は地域展開という方向性に向かっているが、スムーズに進める地域は少なく、どうしても先生の力が必要になる。先生がクラブ活動に参加しやすい形を整

えるべきだと思う。個人責任で動くような仕組みになってしまうと、先生が負担を感じるだけでなく、継続が難しくなるのではないか。

- 公務員である先生は兼職兼業が許可されていなければ、指導に対しての謝礼を受け取ることができない。今後、一般住民の方が指導に関わる場合は、公務員のような規制はないので、活動の幅が広がると思う。

他町の例であるが、先生が競技の指導を手放すと、役場職員の方が指導者になるケースがあるため、単に役場職員がその負担を肩代わりしている状態で、広く一般住民が協力する体制がまだ整っていないことが多い。役場職員も勤務時間を調整しながらと取組む場合はあるが、それも負担が大きい。